

令和2年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	高校生の音楽1(音楽の友社)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

「歌う」「楽器で演奏する」「音楽を鑑賞する」「楽曲を創作する」の4つの分野を年間通じて学習します。学習の到達度は実技テストやノート提出などで評価します。クラスメートとの実習を通じてみなさんの感性を豊かにしていきます。
音楽が生涯を通じて心の支え、生きていく力となるよう願っています。

2 学習の到達目標

歌唱、楽器演奏、基礎的音楽理論学習の諸活動を通して、種々の音楽に興味を持ち、鑑賞する能力を高めるとともに、感性を伸ばし、音楽を愛好する心を養う。

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	a:音楽への関心・意 欲・態度	b:音楽表現の創意工 夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形成する要素を理解し、それらの働きを感受しながら、どのように歌うか、演奏するか、創作するかに意欲を持っている。	工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、演奏(器楽)、創作の技能を身につける。	音楽を形成する要素を理解し、それらの働きを感受しながら、楽曲を解釈したり、それらの価値を考えたりしながら、音楽に対する理解を深める。
評 価 方 法	観察 ノート	観察 ノート	演奏の聴取 提出作品	観察 ノート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
〈1学期〉	青春と音楽	<ul style="list-style-type: none"> 翼をください 少年時代 見上げてごらん夜の星を 校歌 	○	○	○		a: 歌う喜びを味わいイメージを持って主体的に取り組む b: 歌詞の内容、音楽の持つ雰囲気を知覚しながら、どのように歌うか表現意欲を持っている。 c: 表現したいことを伝えるために歌唱の技術を持っている。	観察 演奏の聴取
	アンサンブルを楽しもう	野菜の気持ち	○		○		a: アンサンブルに関心を持ち、その持ち味を生かして演奏する学習に主体的に取り組む。 c: リズム譜を把握し表現したいことを伝えるための技能を身につけている。	観察 演奏の聴取 ノート
〈2学期〉	器楽	広い河の岸辺	○	○	○		a: リコーダーに関心を持ち、アンサンブルを表現する技能を身につけている。 b: 学曲を形成する旋律、リズム、ハーモニーを理解し、どのように表現するか表現意欲をもっている。 c: 楽曲を表現するためにリコーダーで演奏するための技能をもっている。	観察 演奏の聴取 ノート
	民族と音楽	花まつり 小さな空	○	○	○	○	a: 日本、世界の音楽に広く関心を持ち、文化に触れながら民族音楽を表現する技能を身につけている。 b: 日本及び世界それぞれの音楽の特徴を知覚しながら表現したいことを伝える歌唱の知識を身につけている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能をもっている。 d: 日本及び世界それぞれの音楽を理解する。さらに楽曲を解釈し、それらの価値観を考え理解を深める。	観察 演奏の聴取 ノート
	芸術と音楽	野ばら Caro mio ben ホール ニュー ワールド	○	○	○	○	a: 曲想と文化的、歴史的背景との結びつきに関心を持ち、歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 楽曲を構成するメロディー、歌詞を理解し、それを表現するための意欲をもっている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技術を生身につけている。 d: それぞれの楽曲を解釈しながら世界の芸術歌曲の理解を深め価値を考える。	観察 演奏の聴取

へ3学期 へ	創作	言葉からリズム&メロディーを作ろう	○	○	○	○	a:「創作」に関心を持ち、想像力を持って意欲的に取り組んでいる。 b:楽譜を書くための基本的な音楽理論を身に着けている。 c:表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 d:創作した楽曲を解釈しながら音楽に対する理解を深める。	観察 ノート
	鑑賞	シューマン 「子供の情景」作品15 長唄「勸進帳」他	○			○	a:日本を含む様々な民族音楽に興味、関心を持っている。 様々なイメージを持ちながら聴いている。(作品を理解している) d:それぞれの作品(楽曲)を解釈し、理解を深める。	観察 ノート

- ※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力
- ※ 原則として「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a,b,c の3観点で、「鑑賞」の分野は a,d の2観点で評価をする。
- ※ 年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容(題材)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

美の造形要素である形体・色彩・構成等を右脳で感得することをめざし、制作を通して個人の見方・感じ方を
深め 更に幅広い表現方法を習得しましょう。

2 学習の到達目標

左脳に蓄積した豊富な知識を活用し、美術の幅広い活動を通して感性を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばし美意識の涵養を図る。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:美術への関心・意 欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	多様な美術文化に触れ、主体的・積極的に造形する喜びを感じる姿勢。	自身の感性や想像力を活用し、課題内容を多角的に捉え表現構想を練る。	自身に芽生えた想いを拡充し、その構想実現に向け様々な表現方法に挑戦する。	美術作品が持つその良さを素直に味わっている。
評 価 方 法	学習活動の様子 課題の関連資料収集 アンケート	関連資料の収集 アイデアスケッチ 素材収集	制作途中の作品 制作姿勢 完成作品	鑑賞レポート 鑑賞活動の様子 制作レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	美術アラカルト	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 教科書等を鑑賞 美術年間計画 アンケート 	○	○	○		a:美術の多様な表現に興味・関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 b:参考作品の良さや美しさ上手さ等を感じ取り、美術の効用や広く文化の理解を深めている。 c:美術に関し、現在所持している用具等を確認し、今後に向けての制作に想いを馳せている。	学習活動の様子 取組姿勢の様子
	鉛筆デッサン	【自画像制作】 <ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフを使って鉛筆を削る ・9段階の明度段階表作成 ・鏡の中の自分をデッサン ・相互鑑賞 	○	○	○	○	a:自身の顔の特徴やその内面にも関心を持ち、一つのモチーフとして捉え表現活動に主体的に取り組もうとしている。 b:表現材料である鉛筆を、カッターナイフを使って削りその特性を引き出している。 1本の鉛筆で真っ黒～白(9段階)のグラデーションを描き出す工夫をしている。 c:自身の特徴・性格等を客観視し、鉛筆の特性を引出し、表情や構図を工夫し表現している。 d:個人の特徴・特性を感じとり作品について理解を深めている。	学習活動の様子 表現材料の整備 制作状況と作品 完成作品 鑑賞活動の様子や発言

	立体デザイン	<p>【ポップアップカード制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身でデザインした図柄を飛び出すカードに仕立てる ・アイデアスケッチ ・制作 ケント紙を使用する 色ケント紙でカバーし完成 ・相互鑑賞 	○	○	○	○	<p>a:生活を心豊かにするデザインの機能や用途などを念頭に、表現活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>b:デザインの目的から表現内容の形とその仕組み・動きを考え構想を練っている。</p> <p>c:目的や意図に応じて表現方法を工夫している。</p> <p>d:作者の意図や表現の工夫、良さや美しさ等を感じ取り、生活を心豊かにするデザインの働きについて理解を深めている。</p>	<p>学習活動の様子</p> <p>表現材料のアイデア収集</p> <p>制作途中の様子</p> <p>制作途中の作品</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞活動の様子や発言</p>
2学期	半立体デザイン	<p>【蛇腹折を生かしたデザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象的な要素を持った2つのモノの組み合わせを選択し、1つの画面に纏める画面作り ・アイデアスケッチ A・B其々のアイデアを描く ・制作 AB其々を等間隔に区切ったパーツを交互に並べ1つの画面にし、其々着色する ・相互鑑賞 	○	○	○	○	<p>a:生活を心豊かにするデザインの目的や条件を踏まえながら、表現活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>b:身の回りに存在するたくさんのモノの中から、対照的な要素を持つ2つのモノを選択し、より表現形式に合った形や色等の働きを考えて構想を練っている。</p> <p>c:目的や意図に応じて用具の特性を生かし、表現方法を工夫している。</p> <p>d:作者の意図や表現の工夫、良さや美しさ等を感じ取り、生活を心豊かにするデザインの働きについて理解を深めている。</p>	<p>学習活動の様子</p> <p>表現素材収集</p> <p>制作姿勢と途中の作品</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞活動の様子や発言</p>

	水彩画	<p>【ちょっと気になる風景画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休暇中に自身が出会った「ちょっと気になる風景」のテーマで撮影したものを元に水彩絵具を使って制作する ・下絵 構想を基に鉛筆で下絵を描く ・制作 水彩絵具を用い、主題を追求しながら描き進める ・相互鑑賞 	○	○	○	○	<p>a: 日頃見慣れた風景の中に心を動かされた(魅力を感じる)スポットを見出し、感じたイメージを主体的に表現しようと取り組んでいる。</p> <p>b: テーマを基に感性や想像力を働かせて、形体・色彩・構成などを工夫し創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>c: 目的や意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫している。</p> <p>d: 作者の心情や意図と表現の工夫等を感じ取り、作品の理解を深めている。</p>	<p>学習活動の様子</p> <p>表現素材収集</p> <p>制作姿勢と作品</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞活動の様子や発言</p>
3学期	鉛筆クロッキー	<p>【人物クロッキー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロッキー事前トレーニング ・クラスメイトを 10 人クロッキー(速写)する 	○	○	○		<p>a: 人体の形体・バランス・ポーズから生まれる動きを、描写時間 10 分間で如何に完結させるか等々、参考作品を見ながら構想を練っている。</p> <p>B: 日頃見慣れたクラスメイトの特徴やその内面にも関心を持ち、一つのモチーフとして捉え表現活動に取り組もうとしている。</p> <p>c: クラスメイトの特徴や性格等も含め 鉛筆を駆使し表現している。</p>	<p>学習活動の様子</p> <p>制作姿勢と途中の作品</p> <p>完成作品</p>
	構成画(ボールペン画)	<p>【ハイスchoolライフ ONE シーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロッキー作品を個々に切り離れたモノを、高校生活の一場面を想定しその中へ人物を組み込み再構成する。(コラージュする) ・それを元にボールペンのみでケントボード紙に一場面として完成させる 	○	○	○	○	<p>a: 一年を通した高校生活の様々な場面を想起し、クラスメイトをその中に登場させ一場面として表現しようとしている。</p> <p>b: 場面設定に必要な諸々の道具立てにも想いを馳せ、完成作品のイメージをあれこれ構想を練っている。</p> <p>c: 人物の立ち位置・大きさ・場面設定に必要な道具立て等々、更には額縁の飾りにも工夫をしながら表現をしている。</p> <p>d: 作者の心情や意図と表現の工夫等を感じ取り、理解を深めている。</p>	<p>表現素材収集</p> <p>制作途中の様子と作品</p> <p>完成作品</p> <p>鑑賞活動の様子や発言</p>

※ 表中の観点について a: 美術への関心・意欲・態度 b: 発想や構想の能力
c: 創造的な技能 d: 鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	新編 書道 I (教育出版)						
副教材等	ペン字実習(日本書写教育研究会)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中国、日本の文化の歴史的背景を踏まえて、書の起源から和洋の書や現代の書への流れを学び、用具用材による表現の違いも理解して、自己表現をしていきます
書を愛好する心情を育てながら、実用につなげ、現代の文化へ発展できることを目指します

2 学習の到達目標

書の幅広い学習活動を通して審美眼を養い、感性を高めるとともに、創作・作業活動から自己の在り方を考えつつ、現代の文化に即した自己表現の方法を培い育てる

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:書への 関心・意欲・態度	b:書表現の 構想と工夫	c:創造的な書表現の 技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造的学習活動に取り組もうとする	感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している	創作・活動を通して、基礎的な能力を発展させ、表現の技能を会得する	書の伝統と文化やその多様性について学び、幅広く理解すると共に鑑賞の能力を養う
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況や態度の観察 ・学習記録(ノート) ・学習成果(作品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度の観察 ・作品構想過程の記録(ファイル) ・学習成果(作品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果(作品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習記録(ノート) ・レポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	漢字の書の学習	・用具用材の学習 ・書体の変遷 ・古典の学習 楷書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭義下碑 行書 蘭亭序 風信帖 草書 真草千字文 隸書 曹全碑 篆書 泰山刻石	○ ○	○	○	○	a: 書体の変遷や用具用材の学習を通じて書写から書道への相違点に気づき意欲的に取り組もうとしている b: 用具用材の使い方を工夫して表現につなげている c: 書写の基本を発展させ技能を高めている d: 古典の時代背景を理解して鑑賞している	・観察 ・ノート ・作品
(夏の課題)	(ペン字の学習)	楷書、行書(実用書)	○				a: 書の基本点画の学習を自ら意欲的に取り組もうとしている。	・ノート
2	篆刻の学習	・篆刻 朱文の名前印	○	○	○	○	a: 印稿作りによって方寸の美への関心を持ち意欲的に取り組もうとしている b: 分間布白等を理解し印稿を工夫している c: 布字、運刀の技能とともに集中力を養う d: 印影を鑑賞し、その美を理解する	・観察 ・ファイル ・作品 ・レポート

2	仮名の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立 ・基本的筆使い 平仮名 変体仮名 連綿 ・古筆臨書 蓬萊切 高野切 他 ・創作 三色紙 (散らし書) 	○		○	○	a: 日本の書への関心を持ち積極的に表現技法を習得しようとしている b: 字母から平仮名への筆使いを工夫している c: 筆使いを身につけ古筆を再現できている d: 墨色の変化や流動美を理解して鑑賞している	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ノート ・作品
3	漢字仮名交じりの書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達から表現、実用への展望 年賀状の書き方 表書の書き方 ・詩文を書く ・相互批評会 	○	○	○	○	a: 現代の書への関心を持ち、自ら表現に取り組もうとしている b: 自ら意図に基づく工夫を活かしている c: 漢字の書や仮名の書で学んだことを元に組み合わせて、実用を活かす技能を発揮させる d: 暮らしの中に書を活かすことを理解し、美の多様性を味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・ファイル ・作品 ・レポート ・ノート

※ 表中の観点について a: 書への関心・意欲・態度 b: 書表現の構想と工夫
c: 創造的な書表現の技能 d: 鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。